

旧岩村振興事務所庁舎を活用した
先人顕彰拠点施設の整備について
(佐藤一斎先生顕彰部分)

令和4年10月

旧岩村振興事務所利活用検討委員会

1. 先進施設視察の実施

嚶鳴広場(愛知県東海市)

- 2015(平成27)年完成
- 市直営
- 鉄骨鉄筋コンクリート造5階建内の2階フロア
- 延床面積484.5m²
- 主な部屋:展示エリア、図書閲覧、学習エリア

江戸時代の教育者、細井平洲が説いた「恕」の心を学ぶことができる施設。童門冬二氏の全著作が閲覧可能。平洲や日本の先人について映像機器を使って分かりやすく学ぶことができる。



平洲記念館(愛知県東海市)

- 1974(昭和49)年完成、2000(平成12)年増築
- 市直営
- 鉄筋コンクリート造2階建
- 延床面積925.79m²
- 主な部屋:展示室(2室)、ホール(図書閲覧、展示)、講義室、収蔵庫、事務室、トイレ

東海市の先人である細井平洲の直筆資料(書画が中心)を展示。講義室では毎月講座を開催。郷土資料館を併設。



塙保己一記念館(埼玉県本庄市)

- 2015(平成27)年完成
- 市直営
- 鉄筋コンクリート造平屋
- 延床面積328.00㎡
- 主な部屋:展示室(1室)、ホワイエ、収蔵庫、作業室、倉庫、機械室、事務室、トイレ

盲目の国学者、塙保己一の遺品及び関係史料の実物を展示。八角形の展示室を一周する中で、塙保己一の生涯を追う。



渋沢栄一記念館(埼玉県深谷市)

- 1995(平成7)年完成
- 市直営
- 鉄筋コンクリート造2階建
- 延床面積2,232.74㎡
- 主な部屋:展示室(1室)、収蔵室、会議室(2室)、図書室、体育室、事務室、トイレ

郷土の偉人渋沢栄一の活躍を史料や写真パネルで年代順に紹介。渋沢栄一アンドロイド講義、企業版ふるさと納税が特徴。



尊徳記念館(神奈川県小田原市)

- 1955(昭和30)年完成、1987(昭和62)年改築
- 市直営
- 鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上3階建
- 延床面積3,912.36㎡
- 主な部屋:展示室(1室)、視聴覚室、図書室、事務室、収蔵庫、宿泊室、食堂、講堂、研修室、トイレ

二宮尊徳生誕地に建つ記念館。尊徳の生涯と功績をアニメや立体模型を使って視覚的に展示。部活動等の宿泊にも利用可能。



報徳博物館(神奈川県小田原市)

- 1983(昭和58)年完成
- 財団直営
- 鉄筋コンクリート造地下1階地上3階
- 延床面積1,163.52㎡
- 主な部屋:展示室(常設1室、企画展示2室)、準備室、収蔵庫、図書閲覧コーナー、事務室、トイレ

展示室では資料とパネルで尊徳の一生と教えを紹介。学芸員による定期講座も開催されている。会員からの会費収入が財源。



松下資料館(京都府京都市)

- 1994(平成6)年完成 ※10年程前、現在地に移転
- 財団直営
- 鉄筋コンクリート造8階建内の3階フロア
- 延床面積828.00㎡
- 主な部屋:展示室コーナー、映像ブース(4室)、庭園シアター、
講話室、経営図書館、事務室、トイレ

コンセプトは「松下幸之助と心の対話をする場」。生き方や教えを伝える講話、庭園シアターや豊富な映像資料がある。



2. 先進施設視察の検証

(1) 視察の感想

【松下資料館】

- ・教えをコンセプトにした施設。展示品が並び解説パネルで紹介する一般的な資料館との違いが鮮明。
- ・目新しくきれいな展示、威圧感がなく、居心地がいい。
- ・何度も行って教えを乞いたい、悩んでいることにヒントをもらいたいと思わせる。
- ・講話により教えを学んでから、展示を見る動線が効果的。
- ・パネルに情報を詰めた近代的な展示を、佐藤一斎に置き換えるのは困難か。

【尊徳記念館・報徳博物館】

- ・アニメや立体模型で視覚的な展示が特徴の尊徳記念館と、書物など最小限の資料展示とし講話で補う報徳博物館の差別化が見られた。

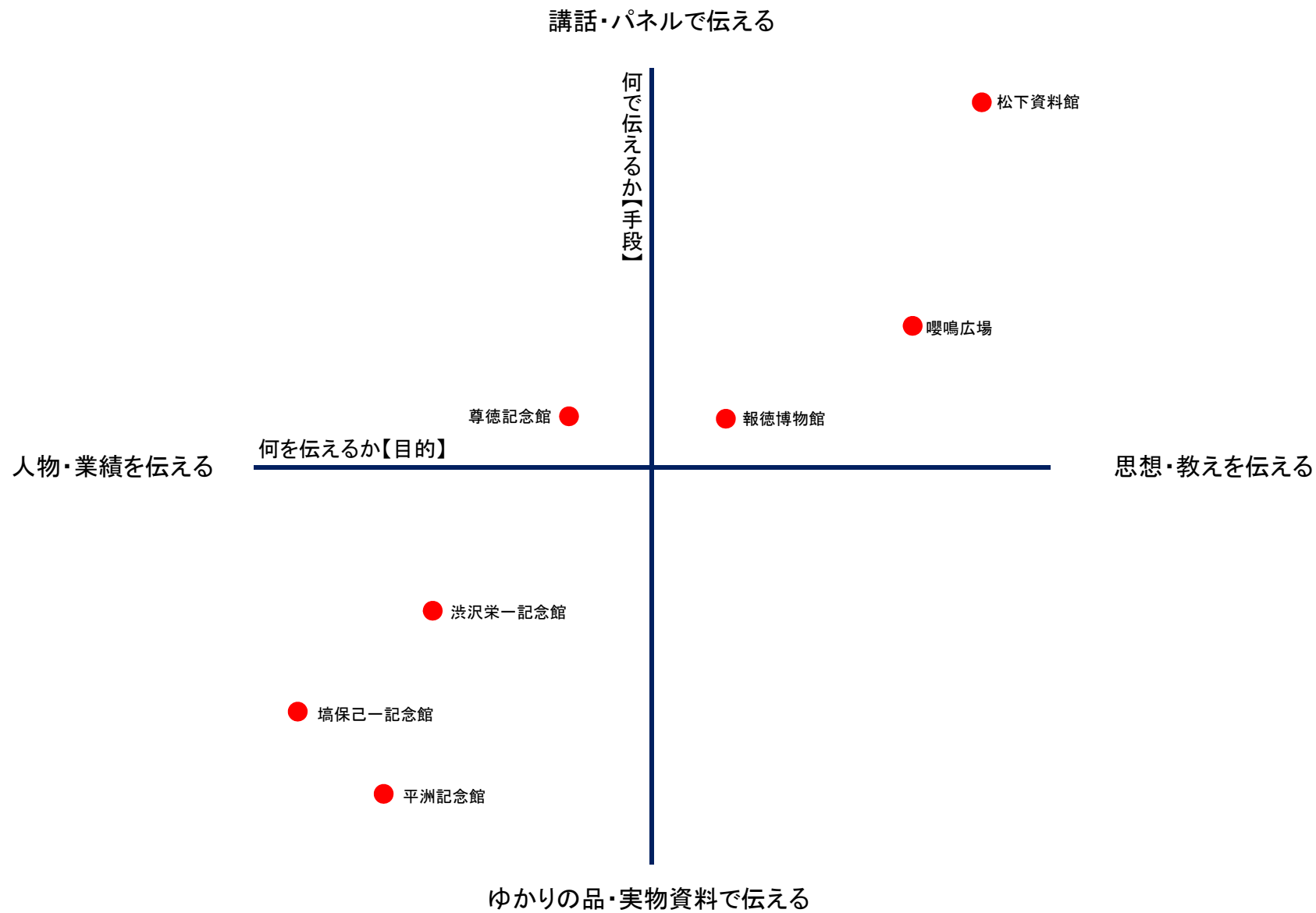
【嚶鳴広場】

- ・丸みのある展示台やパネル展示が簡易な壁面、ガラス板と背景を合わせた立体展示、天井のデザインなど、展示レイアウトに新しさを感じる。
- ・学生の学習スペースもあり、展示ペースが違和感なく溶け込んでいる印象が良い。
- ・細井平洲の門人の紹介は、佐藤一斎も同じことができるため参考になる。
- ・嚶鳴協議会の自治体間で資料借用や先人の紹介など、ネットワークが築ける。
- ・掛軸や書籍など実物を展示するスペースがあるのも良い。

【平洲記念館】

- ・資料展示の解説文の文字サイズや内容が見やすいよう配慮されている。文字を大きくしたり平易な文にするのは重要に感じた。
- ・立派な講義室があったが、最初にガイダンス的な講話があり、展示見学するルートができると、効果的に見学できる。

(2)施設の分析



3. 先人拠点施設の整備イメージ

(1) コンセプト

佐藤一斎の教えを伝える施設

～一斎先生と対話し、現代に生きる教えを体感する～

5つのポイント

- ① 佐藤一斎の現代でも生きる教えを前面に出す
 - ② 何度も行ってみたいくなる施設(リピーター)
 - ③ 居心地のいい施設
 - ④ 子どもから大人まで楽しみながら学びができる施設
 - ⑤ まち全体を含めた訪れる価値を生む雰囲気づくり
- 他のどこにもない、日本一の施設を目指す！



(2)コンセプトを実現するための**施設方針**

①佐藤一斎の現代でも生きる教えを前面に出す

- ・年代や目的に合わせた講話メニュー
- ・講話やガイダンスをはじめに受け、展示へと誘導する流れ
- ・ICTやAIを活用し、一斎先生との対話ができる仕掛けづくり

②何度も行ってみたいくなる施設

- ・本物(実物資料)の資料の展示だけに偏らない展示レイアウト
- ・その時の心に合った教え(言葉)がもらえる個々への対応

③居心地のいい施設

- ・シンプルながら良質で疲れさせない展示
- ・基調色を使った空間づくり
- ・直線的ではない丸みを生かしたレイアウトや椅子・ソファの効果的な設置
- ・自由で強制的ではない動線

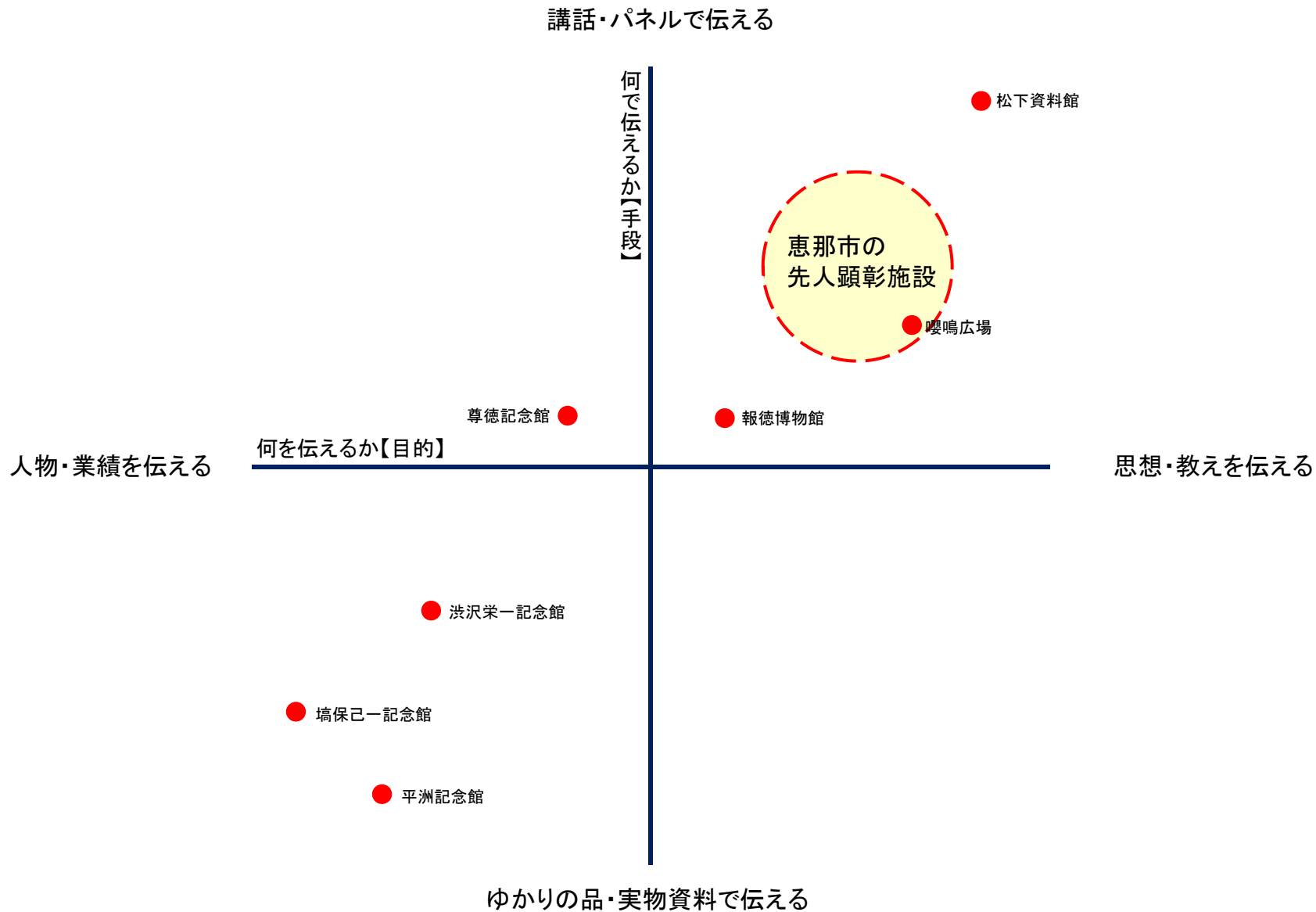
④子どもから大人まで楽しみながら学びができる施設

- ・年代や目的に合わせた講話メニュー(再掲)
- ・「見る」のではなく「感じる」学びの場

⑤訪れる価値を生む、まち全体を含めた雰囲気づくり

- ・いわむら城下町(石碑、銘板)との連携
- ・ネットでは手に入らない価値づくり(まちの雰囲気・地元の人とのふれあい)

(3) 施設の位置づけ



(4) 必要な施設(部屋・区画)と機能 ～ハード整備～

施設

- ・講話室、セミナールーム(社会見学や企業研修に対応可能)
- ・展示室
- ・受付
- ・事務所(スタッフルーム)
- ・収蔵庫
- ・作業室
- ・トイレ

機能

- ・人による講話
- ・映像ガイド
- ・子ども向けコーナー
- ・休憩(くつろぎ)スペース
- ・個々への対応(AI・映像)



(5)期待される**事業展開** ～ソフト展開～

事業内容

- 校外学習やワークショップを通じたふるさと学習の実践
- 年代や目的に合わせた講話メニューの設置
- 記念館を拠点とした定期講座や講演会の開催
- アニメや紙芝居を使った佐藤一斎と言志四録の解説
- 個々に応じた言志四録の教えを解説
- 広報紙の発行、書籍・グッズの販売

全国展開・波及

- 佐藤一斎の教えの全国ブランド化(認知度向上、交流関係人口づくり)
- 岩村城や城下町と連動した滞在型観光の造成
- 社会見学や企業研修など人物観光の受け入れ
- 嚶鳴協議会参加自治体間の連携強化
- サポーター・サポート企業の獲得



いわむら一斎塾の
知見・人財を注入

効果

- 子どもたちの郷土愛の醸成
- まちづくり活動の活性化
- 「三学の精神」の浸透と市民三学運動の活性化